人物登場

石井 秀明さん
（総代会会長）

私は、関西（せき・にし）を代表して白子神社の総代を勤めています。さらにご推挙を受け総代会の会長を任されました。とても光栄なことですが、その責任の重さを日々感じながら過ごしています。

白子神社の総代は、全部で２９人です。それぞれの地区を代表して神社の運営に協力しております。私が会長になってすでに2年が経ちました。この間、最も頭を悩ませたのがやはり〝コロナ〟です。神社には長く続いているお祭りがあります。正月元日の歳旦祭から始まり、大晦日の大祓まで欠かすことの出来ないお祭りです。長い伝統を総代会は守らなければならないのですが、コロナの感染も心配です。どのようにお祭りを実施するかを決めるのはとても難しいことでした。今年の秋のお祭り、一年の中で一番大きなお祭りの例祭では昨年と同じようにお神輿をトラックに載せて氏子地域を回ることになりました。本来ならばお神輿を担ぎたいのですが、今はまだ無理だと判断しました。

私の地元、関には八幡神社があります。氏子の数は、25軒ほどです。八幡神社は、現在5人の総代役員が中心になってお宮の管理をしています。神社というのは元々地域のコミュニティーセンターでした。以前は神社で自治会の集会などもしていたそうです。地域の人たちが一緒に仲良く暮らすための重要な場でした。戦争中には戦地に出征する人たちを見送る場でもありました。

関の八幡神社は〝イボ神さま〟とも言われています。神さまにお願いするとイボが治ったとも子どもの頃に聞きました。八幡神社では、一年に1度お祭りがあります。当番さんがみんなの食べる料理とお酒を用意してもてなしてくれるのが伝統です。最近地元の神社に関心をもつ人が減ってきているように思います。私たちは古くから身近な神さまと共に長く暮らしてきました。その神社をぜひ大切にしてほしいと思っています。

アマビエお守り完成！

五月二十日より白子神社に鎮座した〝アマビエさま〟のご神像ですが、このたび〝アマビエさま〟にちなんで、疫病退散のお守りと〝アマビエさま〟と同じ木片を入れたしおりの二種類を新しくお守りのラインナップに加えました。

ここ数年大変な状態が続いておりますが、新型コロナの収束へ向けて皆さん力を合わせて頑張りましょう！

神社面白話「わっしょい」ってなに？

お神輿が練り歩くことを〝神輿渡御〟（みこしとぎょ）といいます。お神輿は神さまが氏子地域を巡るための聖なる乗り物で、元々は疫病が流行した時、神さまの力を借り、疫病退散のお祓をする為のものです。ところで、お神輿の担ぎ手の掛け声、「わっしょい」ですが、どうしてこの掛け声になっているかご存知でしょうか？

「わっしょい」は「和と一緒」「和を背負う」が転じて「わっしょい」となったなど諸説ありますが、「ひとつの目的を達成する」という意味の「和上同慶」（わじょうどうけい）という掛け声が、「和上」といわれるようになりそれが転じて「わっしょい」となったという説が有力とされています。

疫病を祓い清めるにしろ、お祭りの一環として皆さんが住む地域までお神輿を担ぐにしろ「目的を達成する」ためには担ぎ手の皆さんが団結しなければなりません。日本人は、皆んなが仲良くしながらこの島国で暮らしてきました。“わっしょい”はそれを象徴する言葉なのです。